

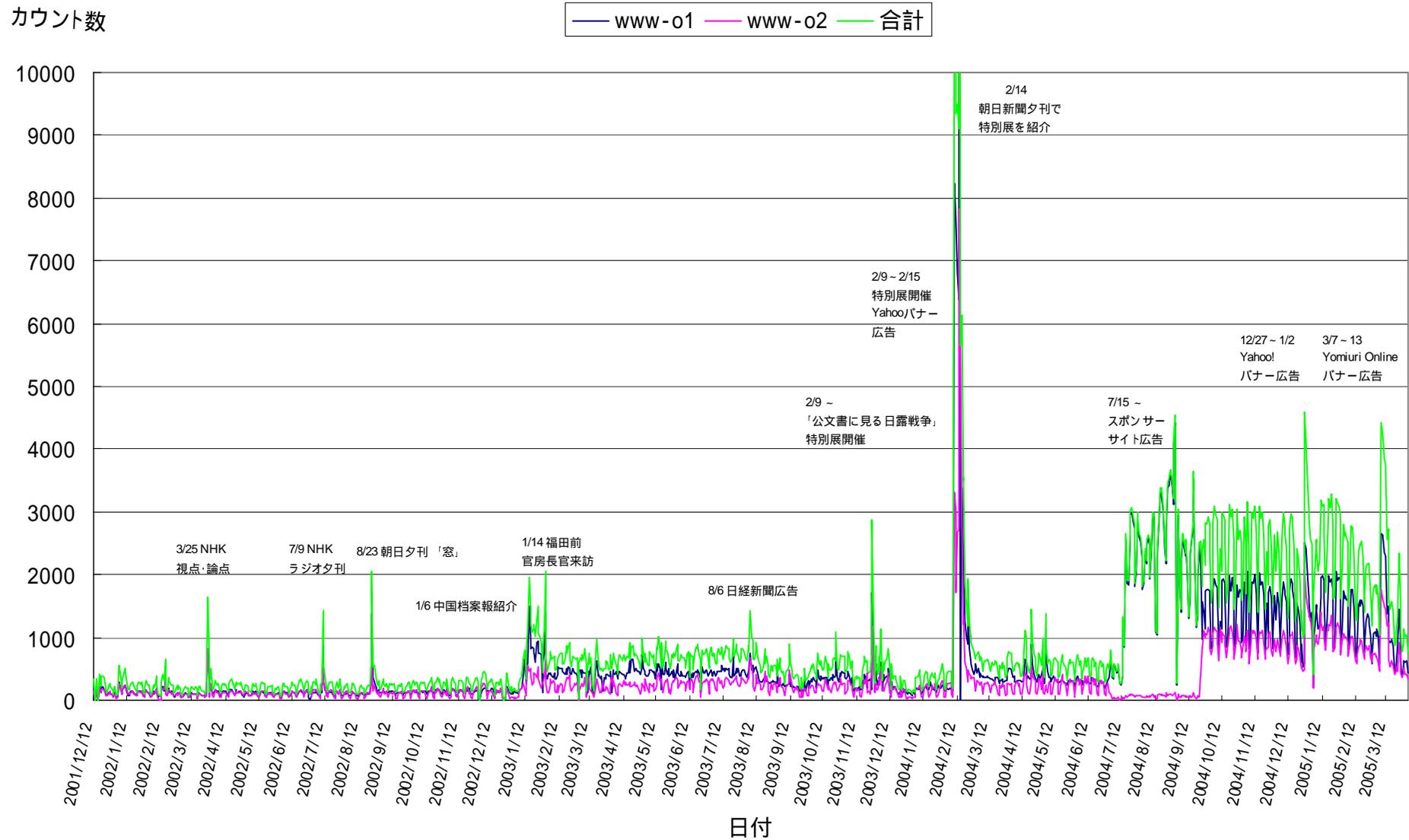
## アジア歴史資料センターHP・トップページアクセス状況

	日本語	英語	計	累計	年計
13年12月	10,998		10,998	10,998	10,998
14年 1月	7,916		7,916	18,914	
2月	6,822		6,822	25,736	
3月	7,470		7,470	33,206	
4月	7,318		7,318	40,524	
5月	6,244		6,244	46,768	
6月	6,040	55	6,095	52,863	
7月	8,910	712	9,622	62,485	
8月	10,824	931	11,755	74,240	
9月	7,018	606	7,624	81,864	
10月	8,256	832	9,088	90,952	
11月	7,792	807	8,599	99,551	
12月	7,621	1,216	8,837	108,388	97,390
15年 1月	25,860	6,970	32,830	141,218	
2月	18,856	3,800	22,656	163,874	
3月	16,633	3,885	20,518	184,392	
4月	20,585	4,285	24,870	209,262	
5月	21,995	4,967	26,962	236,224	
6月	20,279	4,141	24,420	260,644	
7月	23,169	4,841	28,010	288,654	
8月	20,431	3,813	24,244	312,898	
9月	12,135	1,368	13,503	326,401	
10月	18,099	3,085	21,184	347,585	
11月	17,908	2,484	20,392	367,977	
12月	12,579	1,460	14,039	382,016	273,628
16年 1月	10,207	747	10,954	392,970	
2月	137,162	1,083	138,245	531,215	
3月	18,010	916	18,926	550,141	
4月	19,667	819	20,486	570,627	
5月	17,654	610	18,264	588,891	
6月	15,346	580	15,926	604,817	
7月	50,969	986	51,955	656,772	
8月	85,256	1,229	86,485	743,257	
9月	69,800	1,203	71,003	814,260	
10月	75,390	1,213	76,603	890,863	
11月	71,469	1,152	72,621	963,484	
12月	72,745	1,111	73,856	1,037,340	655,324
17年 1月	76,395	1,330	77,725	1,115,065	
2月	58,316	1,348	59,664	1,174,729	
3月	54,547	1,195	55,742	1,230,471	
<b>合計</b>	<b>1,164,691</b>	<b>65,780</b>	<b>1,230,471</b>		

注: 13年12月には11月30日も含む

- 備考) 1. 平成14年12月新規リーフレット作成・配布。  
2. 平成16年2月「日露戦争特別展」開始。Yahooバナー広告(1週間)。朝日夕刊に関連記事掲載される。  
3. 平成16年7月よりスポンサーサイト広告開始。  
4. 平成17年3月7日から読売新聞web版にバナー広告。(1週間)

日本語版  
ウェブサーバ・アクセスカウンタ(2001/12/12 ~ 2005/3/31)



# プリズム

第10回

Prism

Number 10



2-112



2-111

昭和6 一 二六六三 暗 奉天 十九日前發  
 警原外務大臣 本省 九月十九日前發 林總領事

第六三〇號(至急極秘)  
 參謀本部通川部長ハ十八日午後一時ノ列車ニテ當地ニ入込ミタリト  
 ノ報アリ軍側ニテハ秘密ニ附シ居ルモ右ハ或ハ眞實ナルヤニ思ハレ  
 又滿鐵木村理事ノ内報ニ依レハ支那側ニ破壞セラレタリト傳ヘタル  
 ル鐵道箇所修理ノ爲滿鐵ヨリ保線工夫ヲ派遣セルモ軍ハ現場ニ近寄  
 セシメサル趣ニテ今次ノ事件ハ全ク軍部ノ計畫的行動ニ出テタルモ  
 ノト想像セラレ

外務省

0 291-1

0015

昭和6 一 二六八一 暗 奉天 十九日前發  
 警原外務大臣 本省 九月十九日前發 林總領事

第六二六號  
 往電第六二三號ニ照シ  
 一九日午後一時ノ列車ニ乗リ本州ニ向ツテ進ミツツル際支那側  
 第二及第三分局ヲ占領シ且ニ線内ニ向ツテ進ミツツル際支那側  
 抗ノ態度ニ出ツル方針ヲ付日本軍ニ於テ發見アリ比メ支那側  
 迎ノ行爲ナキ様取計ハハ支那側ノ防衛ヲ下ラセタキ旨傳テ  
 右軍ニ軍備ニ通シ置キテ

外務省

0 291

0016

出所：国立公文書館 アジア歴史資料センター  
URL：http://www.jacar.go.jp/

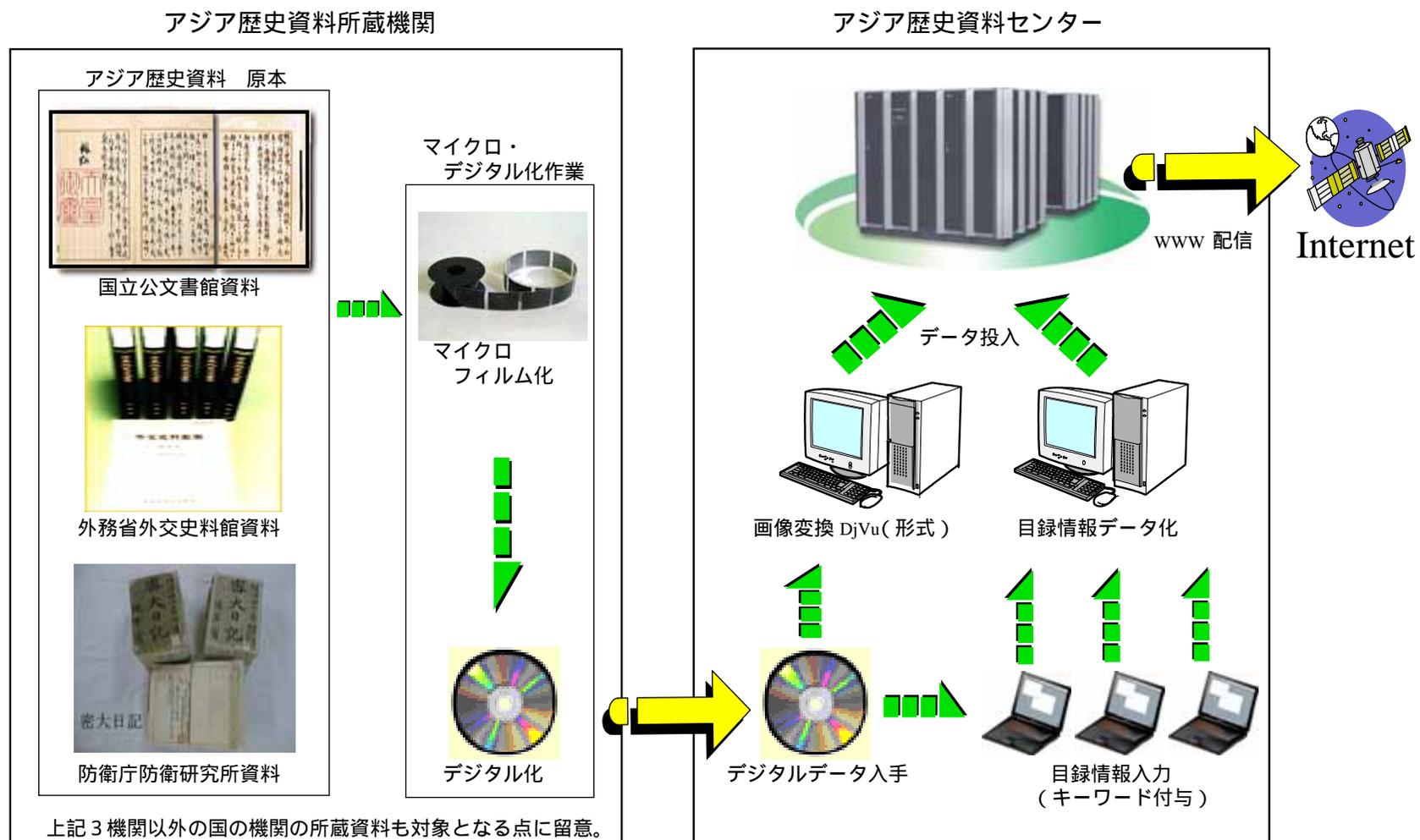
## 戦車1台分

一一年前、村山富市首相(当時)はアジア近隣諸国との過去の歴史を直視し、未来志向の對話を促すための「アジア歴史資料センター」設立構想を発表した。だが、自民党右派は反対し、外務省、文部省は中国、韓国を刺激するのを恐れて主管官庁も決まらず、幾度も頓挫しかけた。知恵者がいて、政府の「聖域」となっていたI T戦略に巧みに絡め、ついに三年前、世界に類を見ないデジタルアーカイブズが誕生した。国立公文書館、外交資料館、防衛研究所図書館が所蔵する戦前・戦中の公文書、七四〇万画像が、誰でもいつでも無料でパソコンで見られる。上の写真は、満州事変の発端になった柳条湖事件の犯人が中国人ではなく日本軍であることを認めた奉天(現・瀋陽)の日本の総領事から外務大臣宛の極秘電報である。これを見た中国の公文書を所管する国家檔案局のトップは、ここまで公開するのかと驚き、隠蔽疑念を捨てた。おそらく、彼らにはできない。センターが提供する資料は、「国家機密」「極秘」「用済後償却スベシ」と注記された戦前の政府が非公開を前提としていた記録である。石井米雄センター長は、「歴史認識を共有することなど不可能。だが、歴史事実を共有することはできる」と言う。今年、戦後六〇周年。ようやく情報公開こそ平和友好の礎だとする地道な努力が、緒に就いた。センターの年間予算は四億円。戦車一台分に満たない。

(辻広雅文)

本欄は複数の執筆者で連載します

## アジア歴史資料情報提供の流れ



**アジア歴史資料センターデータベース構築計画  
(整備作業繰上げに伴う修正案)**

(単位: コマ)

	国立公文書館	外交史料館	防衛研究所図書館	合計 / 累計
H 12	122,000	660,000	1,150,000	1,932,000 / 1,932,000
H 13	720,000	735,000	890,000	2,345,000 / 4,277,000
H 14	160,000	855,000	1,150,000	2,165,000 / 6,442,000
H 15	450,000	750,000	1,530,000	2,730,000 / 9,172,000
H 16	450,000	1,000,000	1,530,000	2,980,000 / 12,152,000
H 17	450,000	1,000,000	1,530,000	2,980,000 / 15,132,000
H 18		1,000,000	1,530,000	2,530,000 / 17,662,000
H 19		1,000,000	1,530,000	2,530,000 / 20,192,000
H 20		1,000,000	1,530,000	2,530,000 / 22,722,000
H 21		1,230,000	1,530,000	2,760,000 / 25,482,000
H 22			1,530,000	1,530,000 / 27,012,000
H 23			1,530,000	1,530,000 / 28,542,000
H 24				
H 25				
H 26				
<b>Total</b>	<b>2,352,000</b>	<b>9,230,000</b>	<b>16,960,000</b>	<b>28,542,000</b>

(注) 当初の構築計画(H13.11.13連絡調整会議承認)では、平成26年度までに画像データを、27,000,000コマ整備する予定であったが、その後、整備計画を精査した結果、国立公文書館の新たにアジア歴史資料として判明した資料を加え、上記のとおり整備作業を繰上げる計画を各館との間で合意した。なお、この数字は、あくまで現時点で各館において詳細が判明している資料のコマ数である。今後各館に移管される資料の中にもアジア歴史資料として重要と思われるものが含まれてくる可能性があるため、各館の資料整備状況によっては、本計画上の数量の変更があり得る。

H13/11/13  
連絡調整会議

## アジア歴史資料センターデータベース構築計画 (追加修正)

(単位:コマ)

	国立公文書館	外交史料館	防衛研究所図書館	合計
H 12	210,000	923,000	1,150,000	2,283,000
H 13	130,000	923,000	1,150,000	2,203,000
H 14	100,000	923,000	1,150,000	2,173,000
H 15	100,000	923,000	1,150,000	2,173,000
H 16	100,000	923,000	1,150,000	2,173,000
H 17	100,000	923,000	1,150,000	2,173,000
H 18	100,000	923,000	1,150,000	2,173,000
H 19		923,000	1,150,000	2,073,000
H 20		923,000	1,150,000	2,073,000
H 21		923,000	1,150,000	2,073,000
H 22			1,150,000	1,150,000
H 23			1,150,000	1,150,000
H 24			1,150,000	1,150,000
H 25			1,150,000	1,150,000
H 26			860,000	860,000
Total	840,000	9,230,000	16,960,000	27,030,000

(注)

- ・この計画上の数量は、現時点で把握している数量であり、各機関におけるアジア歴史資料の今後の増加等によっては計画上の数量を変更する場合がある。
- ・国会国立図書館（憲政資料館）の保管するアジア歴史資料（550万コマ）のマイクロデジタル化については同館と要調整。
- ・国立公文書館所蔵のアジア歴史資料については、現在判明している約84万コマを平成18年度までにマイクロ化・デジタル化する。

## モニターアンケート集計結果概要(平成16年度)

## アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センターでは、平成16年10月から12月にかけて、モニターアンケート(平成16年度)調査を実施しました。アンケートはモニター登録者 89 名に依頼し、回答を頂いたのは78名でした。

全50問を集計した結果の概要は以下のとおりです。

## 1. 利用環境について

使用端末は、Windows XPが半数を超え、使用ブラウザもInternet Explorer Ver6. が大部分を占めました。通信手段ではADSLや光ケーブル等の高速通信手段が合わせてほぼ90%以上使われており、これにより画像の表示速度等は以前に比べて相当改善されたものと思われます。

利用形態の項目では、月1～3回の利用で、1回の利用時間は約30分、夜の時間帯に自宅から利用される方が多く、また研究・教材・勉学で利用される方と、歴史資料に興味をもって利用される方がほぼ半々との結果がでました。

また、センターHPはネット検索等のインターネット媒体を通じて知ったという方が半数以上を占めました。

## 2. ホームページについて

今年度にデザイン変更をした各ページに関して、全体で13問の質問を行いました。これらの回答をまとめてその平均をとると、「良い」48%、「普通」42%、「あまり良くない」8%という結果が得られました。

「良い」という理由には、明るいイメージになった、目的のページへのリンクが分かりやすくなった、等の意見がありました。

「あまり良くない」点としては、文字が小さくて見づらい、「ご意見・ご要望」などにある個人情報記入欄はなるべく任意記入にした方が良い、外部機関へのリンクはもう少し増やしても良い、等の意見がありました。

また、改善の提案としては、「資料整備状況」のページから階層検索が行えるようにしてほしい、「所在地・連絡先」ページは独立させた方が良い、資料の二次利用における営利・非営利の区別が分かりにくいので説明を簡潔にしてほしい、等の意見がありました。

## 3. 検索方法について

最もよく利用する検索方法は、「キーワード検索」67%、「キーワード詳細検索」と「階層検索」がそれぞれ13%、との結果となりました。しかし実際に検索する場合は、まず「キーワード検索」を使用し、その結果と合わせて「キーワード詳細検索」、「階層検索」、「レファレンスコード検索」を使用するという方も多くいらっしゃいました。

検索方法全体に関する意見として、使い勝手が良い、よく使われる検索語の一覧があればよい、検索メニュー画面に簡単な説明も付けてほしい、等の意見がありました。

#### 4. 目録、画像表示について

現在センターで公開している目録項目については、「良い」44%、「普通」50%となり、ほとんどの方からは十分である、との回答がありました。一方、内容に先頭 300 文字を入れるという方法については、取りこぼしが起こる心配があるとの指摘がありました。

画像表示の操作性、印刷、保存、画像の質については、「良い」「普通」を合わせるとほぼ 80%以上の方が満足との評価となりました。指摘点としては、ページ送りの時に画像の左上合わせで表示されるのが見にくい、印刷時に A4用紙に合わせるのに少し調整がいる、カラーで見たい資料もある、等の意見がありました。

#### 5. 資料の利用状況

今回のアンケートでは、直接3館(国立公文書館、外交史料館、防衛研究所図書館)で資料閲覧をされたことのある方が約 28%となり、これらの方々には年2～3回の割合で3館を訪れているとの回答がありました。

現在利用されている資料としては、日露関係、日中関係、条約関係に多くの回答がありました。また今後の公開対象の資料候補としては、国会図書館憲政資料室等を含めて、米国・中国が保管する日本資料(満鉄、関東軍等)も対象にしてほしいとの意見もありました。

#### 6. まとめ

センターの評価については、五段階評価平均で「4.19」との結果が得られました。理由として、もっとも評価された点は、インターネットによる資料公開により誰でもが無料で見られるという点でした。また特別展の開催についても高い評価が得られました。改善点としては、公開資料を増やすこと、まだ知らない方が多いので広報に努めること、使いやすくするための改良を怠らないこと等の意見がありました。

以上